

世界のチャイナタウン

■ 世界に拡散した華僑・華人

中国人は世界中に展開し、世界中にチャイナタウンを形成している。これは他の民族に見られない数と規模を誇っており、この背景には、中国人が伝統的に対外進出への志向性が強かったことがある。特に清代以降の海外進出は大規模で、その子孫を含めると現在は約4000～4500万人と言われている。彼らの多くは福建省、広東省、広西省、海南省出身者で、労働者・商人として活動し「華僑」と呼ばれた。中華料理のレストラン業者としても世界に拡散した。東

しかし、彼らは世界各地に住むだけでなく、「タウン」を形成して集住したことで初めて「チャイナタウン」(華埠)を世界に形成した。中国人のみ集まって行なうような仕事が特定場所に集中された場合(ニューヨーク・マンハッタンの高賃金縫製工場や中華レストラン)や中国語しか話せない大量の移民が中国語のみで暮らせる場所を居住地に選んだという場合がそれである。多くの場合はそのタウン内に孔子廟や関帝廟といった宗教的施設も有している。

■ 日本のチャイナタウン

日本における最大のチャイナタウンは横浜中華街であり、500店舗以上が集まり、実際に華僑たちがこの地に暮らしている。他方、神戸の「南京町中華街」は純然たる商店街として店舗数は約100軒と少ない。日本で3番目の中華街は長崎市にある「新地中華街」で約40軒の中華レストランおよび雑貨商店が集まる。江戸期からの対中交易に起源するという歴史を持つ。

■ 北米のチャイナタウン

北米には、ニューヨーク、サンフランシスコ、シカゴ、トロント、バンクーバーなどほぼ全州にチャイナタウンが存在するが、創設の時期により、異なった特徴を有している。有名な事例にニューヨークのチャイ



一部に日本料理店も交じるシカゴのチャイナタウン。白人客も多い。



横浜中華街の入り口にある中国式の門。日本最大の中華街は横浜の開港から始まった。

ナタウンがあるが、大きなものに次の3つがある。

①ロウアー・マンハッタン

世界に知られた「ザ・チャイナタウン」として中華レストランが集中。隣接する「リトル・イタリー」から海鮮食品を購入して調理している。創設時には中国人を低賃金で使う小規模縫製工場などが集中していた。

②クイーンズのフラッシング

主に台湾系住民が戦後に創設したチャイナタウンで、レストラン街というよりは、新規に移民してきた中国人の居住地としての性格が強く、食材スーパーなどが多い。ミニコミのタウン誌などもある。コリアンタウンが後に隣接して形成されている。

③ブルックリンのサンセット・パーク

ここの歴史は約20年で②よりさらに新しく、ニューヨークの中心地に遠くはなれた一地区に新たに中国人が住み着いて形成されたもの。

しかし、③の後にも、さらに新しいチャイナタウンがいくつも形成されている。

■ その他のチャイナタウン

上記以外にも、ホーチミン、ブエノスアイレス、パリ、シドニー、メルボルン、ブリスベン、ドバイなどのチャイナタウンが有名である。また、近年における中国人のアフリカ進出により、アフリカで新興のチャイナタウンが形成されつつあることも見逃せない。[大西広]